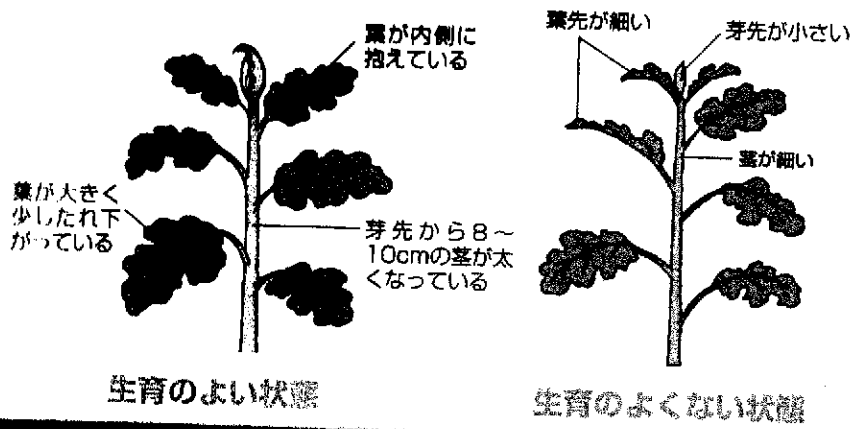


POINT

キクの育成をチェック

定植後から開花までの50~60日間は、注意して観察し、つねによい状態を保つように心がけます。生育状態は茎の太さ、葉の大小や付き方などで判断します。



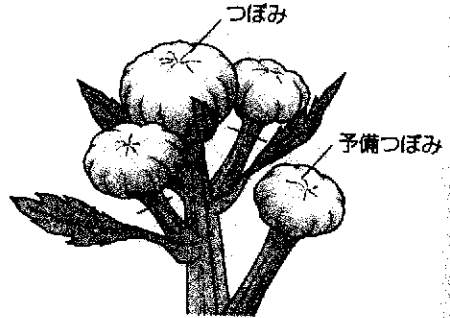
POINT!

側枝やつぼみは予備を作る

芯になる側枝の下から伸びていく側枝の1本を予備として、芯側枝に添えて支柱に緩く固定しておきます。

つぼみも同じで、本つぼみを咲かせますが、必ず予備のわきつぼみを残しておきます。わきつぼみは上から3~4番目を選びます。芯つぼみに近いものを残すと、芯つぼみとわきつぼみ

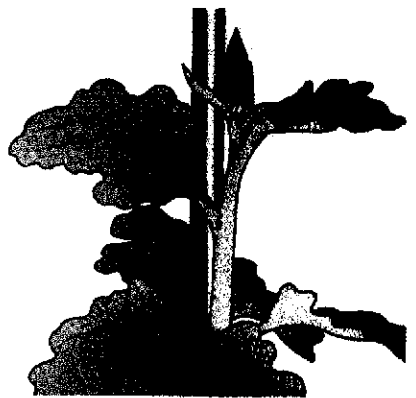
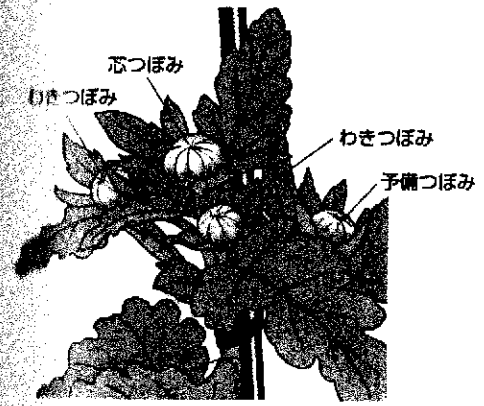
に養分が分散し、大切な芯つぼみの生育が悪くなる心配があります。



28

つぼみ摘み

品種などによりますが、つぼみは数個が付きます。咲かせるための1個残して他は摘み取ります。芯つぼみのついた茎は傾かないように支柱にそえて、まっすぐに固定し、芯つぼみが直径1cm以上になって異常がなければ、予備つぼみを切り取ります。



① 芯つぼみと予備つぼみ1つを残して他は摘み取る

② テープを巻いて芯つぼみを固定する



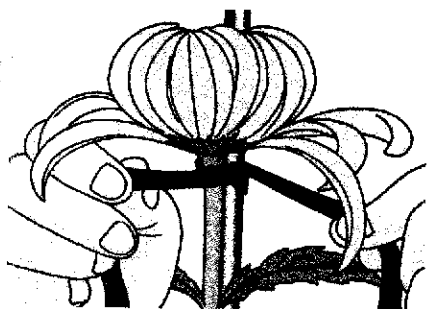
③ 芯つぼみが直径1cm以上になり、異常がなければ予備つぼみを処置する



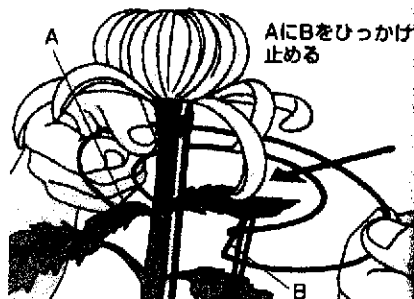
④ 予備つぼみを切る

24 輪台を付ける

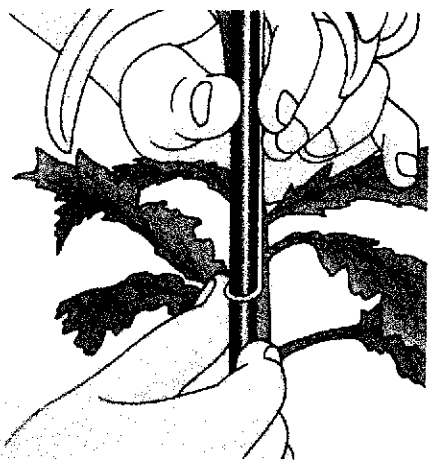
花茎の成長が止まり、花首が固まったら、輪台付けの適期です。輪台のサイズは径9~21cmまであり、花の大きさによって使い分けます。輪を広げて花の下に入れ、閉じて輪台の足を支柱にはめ込んで固定します。輪台の足の中央を幅広のひもで支柱にしばり、傾かないように固定します。輪台は花が開くにしたがって下にすらし、最終的には、花首から5~6cm下に固定します。



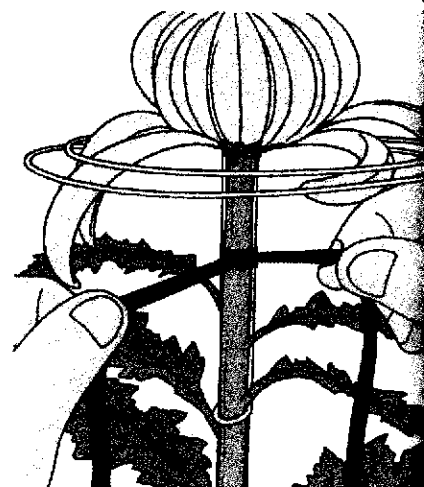
① 花首を支柱に固定する



② 輪台を差し込む



③ 足を支柱にはめ込む

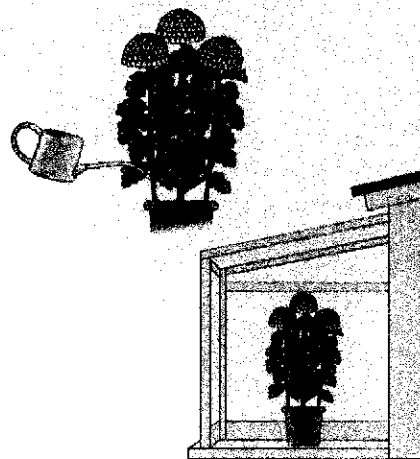


④ 足を支柱に固定する

花の手入れと管理

●水やりと置き場

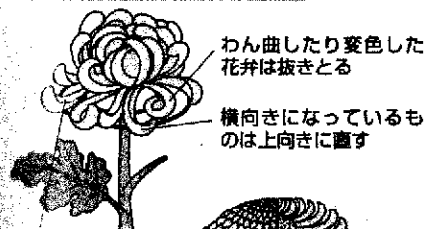
たっぷり与えますが、8分咲きになる10月下旬以後は、控え目にします。花卉は、雨や夜露を嫌うので、雨などから守り、7~8分咲きまでは日に当て、以後はガラス越しの日光下で管理します。



●厚物、厚走りの手入れ

花卉の向きが、上向きにきれいにそろっていることが大切です。向きの悪いものは、そろえてやり、直らないものや変色しているものなどは、抜き取ります。

●開花しはじめた厚物

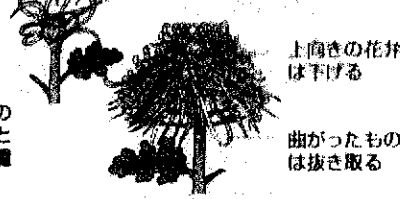


厚物は一番下の花卉、厚走りは走り弁をほぼ等幅に並べる



●ほぼ満開になった厚物

●開花しはじめた管物



●ほぼ満開になった管物